



生理用品サポート事業(きんもくせいプロジェクト)について

本市では、コロナ禍をきっかけに顕在化した「生理の貧困」への支援として、市内の学校及び若者や女性が立ち寄りやすい施設等において、様々な困りごとの相談に応じるとともに生理用品を配付する生理用品サポート事業「きんもくせいプロジェクト」に取り組んでいます。

1 事業の目的

SDGsの誰ひとり取り残さないすべてのひとにやさしいまちづくりの一環として、経済的負担の軽減を図るとともに、支援を必要とする児童・生徒・女性に対して適切な相談支援につなげるための取り組みとして実施しています。

2 相談窓口別実施状況

(2021/4/1~9/30)

相談窓口	対象者	相談方法	配付数
各学校(43校)	児童・生徒	声掛けしやすい先生に相談	69
明石こどもセンター	要支援児童	家庭訪問時等に個別で対応	125
AKASHI ユーススペース	中学生、高校生、大学生、専門学校学生	トイレ等にカードを設置し、受付カウンターでカードを提示してもらう。	136
あかし男女共同参画センター	明石市民と市内学校の通学者	希望する場合、継続相談につなぐ。	251
生活再建支援相談 DVセンター 母子父子自立支援相談 引きこもり相談	明石市民	生活再建支援相談、母子父子自立支援相談、ひきこもり相談等、既存の相談支援窓口での相談時に、希望者に生理用品を配付する。	36
こども食堂	こども食堂利用者	こども食堂で生理用品を配付し、こどもの見守り・支援につなぐ。	20
計			637

(主な相談者の声)

- ・生活面でとても困っていたので助かった。(中学生の母親)
- ・一人暮らしのため、何かと大変なので助かる。(大学生)
- ・アルバイトがなくなったが何とか頑張っている。無償提供はありがたい(大学生)
- ・今回1回だけです。継続して欲しい。(10代)

(効果等)

- ・あかし男女共同参画センターでは、きんもくせいプロジェクトをきっかけに「就労支援相談」や「女性のための相談」につながったケースが報告されています。
- ・学校においても、相談をきっかけにSSWにつながり、継続支援につながった事例が報告されています。

#### 4 学校でのモデル事業の実施について

きんもくせいプロジェクトを実施する中で、児童生徒が先生に生理用品の相談をすることは、心理的負担が大きいとの意見を踏まえ、さらなる児童生徒に寄り添った支援につなげるため、7月に明石商業高等学校において、学校の女子トイレに生理用品を配備するモデル事業を実施しました。

##### (1) モデル事業の実施状況について

【期間】 2021年7月1日（木）～20日（火）※2学期以降も継続中

【使用個数】 151個

【配置場所】 女子トイレ個室 計45室

##### (2) アンケートでの主な意見

- ・生理用品を教室から持ち出しにくい。
- ・急に必要になったとき助かった。
- ・トイレに常備されていたら便利だ。
- ・生理痛がつらく授業に集中できない。
- ・生理のことを人に話せない。

##### (3) 生理用品配備イメージ



##### (4) 小中学校でのモデル事業

明石商業高校でのモデル事業の実施状況を踏まえ、生理用品の入手が困難という経済的な理由以外にも、生理用品を学校のトイレに配備し、いつでも入手できる環境を整備することに一定のニーズがあるものと考えます。また、高校のみならず小中学校においても同様の支援が必要との考えから、10月4日より、高丘小中一貫教育校においても、学校のトイレに生理用品を配備するモデル事業を実施しております。

#### 5 次年度以降の継続実施

きんもくせいプロジェクトについては、本年度の取り組みを検証のうえ、見直しを図りながら次年度以降も実施してまいります。

「生理の貧困」への取り組みは、全国的に広まりつつありますが、防災備蓄品を活用した一時的な対応の自治体が多い中、本市では、継続的な取り組みとして実施してまいります。

事業継続にあたり、今後も教育委員会との連携を図り、児童生徒に寄り添ったきめ細やかな対応に努めていきます。